

## 【奨励賞】

### 「強き心と強き意志で前へ！」

登別市立緑陽中学校

2年 堺谷 海斗

「返還しろ返還しろってうるさいなあ」それが、北方領土に関するニュースを見た時に僕が思ったことでした。この時の僕は、北方領土のことを全く知らなかったので、正直どうでもいいと思っていました。そんな僕は、父に北方領土のことを聞いてみたら、色々教えてくれて、そこでようやく北方領土のことに少し興味がわきました。

僕が最初に面白そうだと思ったのは、資源についてのことでした。択捉島の周りには魚がたくさんいることがわかり、択捉島が返されないことが少し日本の生産業に打撃を与えているのでは？と思いました。

次に興味を持ったのは、北方領土が奪われたのが終戦後すぐのことだということです。せっかく長きにわたった残酷な命の奪い合いが終わって「もう戦いなんてごめんだ」と思った矢先のロシアの襲撃。ロシアの人たちの考えたことなどわかりませんが、おそらくは領土的野心がよほど高かったか、復讐でしょうか。それに対して日本は抵抗しませんでした。僕は政治家ではないので、国家間の問題に口を出すなんてことはしませんが、当時の北方領土に住んでいた住人の方々の気持ちは少し理解できます。僕だったら、絶望してしまうでしょう。

そして、最も興味深いのは、元住民の方やその子孫の方々の諦めない強い心についてです。

何度も何度もロシアと交渉し続け、断られてきたはずなのに、折れずに、いつか返還されるように努力する、前に進んでいける、その逞しい心に僕は感動したのかもしれない。少なくとも活動している方々を応援しようと思うぐらいには。僕には、そんな強く逞しい心がないので、とても羨ましく思ってしまう。僕もその強い心を持てたら、今の臆病な自分を変えられるかもしれません。

この作文を書いている、一つのことを気がつきました。それは「悲しみに屈しない心と前へ進んでいこうとする意思」さえあれば、人は大抵のことは上手くやっていけるとことです。

北方領土の返還へ向けて、立ち止まらず、決して折れずに活動を続ける人たちを見て、僕はそう思いました。

宮沢賢治さんの「雨ニモマケズ」。これはとても良い言葉だと思います。コンセプトが少し違いますが、悲しみに屈さず、決して折れない強い心を持つという僕の考えと似ている気がします。

北方領土の返還はまだ達成されていませんが、弛まぬ努力が身を結び、一日も早く北方領土が日本に帰ってくることを、僕も願っています。